

付注 1-2 構造的失業率の推計方法について

失業と欠員が等しいとき、労働力需給は均衡しているとみることができ、その時の失業率を構造的失業率とする。循環的失業率は、失業率（実績）から構造的失業率を引いたものである。

就業者には雇用者と自営・家族従業者があるが、労働需給の分析においては、自営・家族従業者を除外し、失業者数の、労働力人口マイナス自営・家族従業者に対する比率（これを「雇用失業率」と呼ぶ）を

用いることがある。労働力人口マイナス自営・家族従業者は定義的に失業者数プラス雇用者数に等しい。

欠員数は求人数そのものではなく、有効求人数マイナス就職件数で定義される。これと雇用者数の和が雇用需要であり、欠員率は欠員数の雇用需要に対する比率とされる。

これら雇用失業率、欠員率の関係を図示すると、右下がりの曲線になる。これは、失業(Unemployment)、欠員(Vacancy)の頭文字をとり、UV曲線といわれる。

推計に用いたモデルは以下のとおりである。

$$\ln U = \alpha + \beta \cdot \ln V + \gamma \cdot M + \delta \cdot N \quad (\text{UV曲線})$$

U：雇用失業率（＝完全失業者数÷（完全失業者数＋雇用者数）×100）

V：欠員率（＝（有効求人数－就職件数）÷〔（有効求人数－就職件数）＋雇用者数〕×100）

M：就業者のうち転職を希望し、実際に求職活動を行っている者の割合

N：第3次産業就業者比率

ここで構造的雇用失業率をU\*、構造的失業者数をX、雇用者数をYとすると、

$$\ln U^* = (\ln U - \beta \cdot \ln V) \div (1 - \beta)$$

$$X = Y \div (100 - U^*) \times U^*$$

よって、就業者数をZとおくと、構造的失業率U\*\*は、

$$U^{**} = X \div (X + Z) \times 100$$

#### 推計結果

$\alpha$ (t 値)	$\beta$ (t 値)	$\gamma$ (t 値)	$\delta$ (t 値)	Adj-R <sup>2</sup>	D. W.
-4.682 (-7.28)	-0.333 (-6.16)	0.202 (4.19)	0.092 (7.52)	0.980	1.082

推計期間：1990年第I四半期～2001年第II四半期